

山口県病院協会 会報

2020 1月号 No.66

●発行日 令和2年1月1日
●発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
●電話 083-923-3682
●FAX 083-923-3683
●発行人 三浦 修
●印刷所 大村印刷株式会社
●メールアドレス info@yha.or.jp
●ホームページ http://www.yha.or.jp



年頭のご挨拶

会長 三浦 修

あけましておめでとうございます。昨年5月より木下毅前会長の後を引き継ぎ、第11代の山口県病院協会会長に選任されました三浦 修です。本年もよろしくお願いいたします。

本年は、診療報酬改定の年となります。国は、2025年あるいは団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年に向けて、持続可能な社会保障制度、医療提供体制の構築を目指し、人生100年時代に向けた「全世代型社会保障制度」を実現すると謳っています。健康寿命を延伸することで、意欲のある高齢者にとって社会的役割と自由が保障され、自己の存在意義を感じることができる制度を、将来にわたって安定を持って確保するためにも、経済・財政との調和が不可欠であるとしています。

改定の基本的視点の中では、「医療従事者の負担軽減、医師等の働き方改革の推進」を重点課題としています。2024年4月から、医師について時間外労働の上限規制が適応されることから、それぞれの医療機関は自らの状況を適切に分析しつつ、労働時間短縮実現に向けての対策が必要となってきます。医師等の負担軽減につながるタスク・シェアリング、タスク・シフティング、チーム医療の推進、届け出・報告の簡素化、人員配置の合理化の推進、業務の効率化に資するICTの利活用の推進、救急医療体制の評価などが具体的方向性として示されています。

働き方改革においては、「地域医療の継続性」と「健康への配慮」をバランス良く進めることが重要な意味を持つものと思われれます。日々各地域で汗を流す医師や従事するスタッフたちが、医療に対してのモチベーションをしっかりと掲げ、心身ともに自らの健康を保ちながら、burnoutすることなく働くことができる環境づくりが、安心安全で継続性を持った地域医療提供体制の構築に繋がるものと確信します。

現在、県内各地域で地域医療構想調整会議が進められています。厚労省は、昨年秋に公立病院公的病院のうち診療実績が乏しく再編・統合の議論が必要と判断した全国424病院（山口県内は14病院）を公表しました。これはあくまでも高度急性期・急性期の機能に着目したデータであり、慢性期や難病等を扱っている病院の機能などは評価対象となっていません。今回の公表が、地域の病院が無くなってしまふのではというような住民の不安を招いたことは否めません。公表後の厚労省の説明の中では、地域医療構想の実現に向け、「必ずしも医療機関そのものの統廃合を決めるものでもなく、病院が将来担うべき役割や、それに必要なダウンサイジング・機能分化等の方向性を機械的に決めるものではない」としています。今後、民間病院のデータも公表する方向性も示されていますが、統廃合ありきではなく地域ごとの医療が将来に向けてどのようにあるべきなのか、しっかりとした議論を重ねる必要があります。

令和の新しい時代を迎えた超高齢社会の中で、2025年あるいは2040年に向けての社会保障給付費増とともに、医療・介護費も急速に増加すると予想されています。国が社会保障給付費の伸びをなんとか抑えようとしている大きな動きの中で、県内の病院がそれぞれの機能、特徴を如何に生かして地域で貢献していくか、医師・医療スタッフを始めとした限られた医療資源を如何に活用しつつ地域住民を支えて行くかが、大きな課題となります。将来に向けての望ましい医療を提供するためにも、会員病院ならびに各方面の皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

CONTENTS (目次)

山口県病院協会会長挨拶	1 ページ
関係団体挨拶	2 ページ
協会役員コーナー	3 ページ
病院スタッフコーナー	4～5 ページ
研修会報告	6～9 ページ
諸会議報告	9 ページ
お知らせコーナー	10 ページ

年頭所感

年頭所感



山口大学医学部
附属病院

病院長 杉野 法広

明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素は、山口県病院協会の諸先生方には、ご指導やご支援を賜り、心よりお礼を申し上げます。

山口大学医学部附属病院では、現在、国立大学病院としては初となる2回目の病院再開整備事業を「Your Health, Our Wish-あなたのために-」をスローガンに進めています。その目玉となる新病棟（A棟と呼びます）が、昨年6月24日に開院しました。現在まで大きなトラブル無く順調に稼動しています。山口大学医学部附属病院は、高度な機能を備えた山口県で唯一の特定機能病院です。山口県の医療における「最後の砦」として、今も未来も、安心・安全な質の高い医療を提供していきます。

大学病院の使命には、医学・医療の進歩に貢献できる高いレベルの研究を行うことがあります。また、若い人達が研究を経験することによって、科学的・論理的な考え方が身に付き、リサーチ・マインドを持つ優秀な医療人が育つことに繋がると信じています。山口大学医学部附属病院は、一昨年、医学研究科とともに人工知能 AI システム医学・医療研究教育センターを設置しました。山口大学本学（岡 正朗学長）のご支援もいただいていますので、今後は、AIによる研究やAIに関わる人材の育成に力を入れ、山口県でしか経験できない魅力ある医学研究、先端医療を展開していきたいと考えています。

このような高度医療や先進的研究を推進する中でキーワードとなるのは、人材です。山口県に定着する医師の確保、若手医師の育成、有能な人材の発掘、優れた人材の育成が重要です。2004年に始まった初期臨床研修制度によって医師の大都市への集中がおり地域偏在が社会問題化しています。山口県では医師の高齢化も大きな課題です。加えて、2024年からの医師の働き方改革関連法案が施行されれば、より一層、医師不足が顕著になることが懸念されます。私は、山口大学医学部附属病院の役割として、山口県への医療人の定着を促進させ、関連病院、医師会や行政との連携を密に進めていくことにより、大学病院を中心とする医療人の流れを作りたいと考えています。この流れが地域医療の活性化につながり、そして山口県全体の医療が発展するという好循環に繋がると考えています。そのため、山口大学医学部附属病院では、医療人育成センターを中心に山口県行政や医師会との連携を図り、オール山口県体制で若手医師の確保に積極的に取り組んでいます。さらに、来年度入試では地域枠の入学定員を10名増やしました。最終的に修学資金が貸与される地域枠が15名と一般地域枠が25名となり、地域枠の学生枠が計40名となりますので、山口県への定着が期待されます。様々な取り組みが功を奏し、若手医師の増加に繋がり、そして山口県全体の医療が発展するという流れを望んでいます。

最後になりましたが、今年が皆様にとってすばらしい年になりますようにお祈り申し上げます。今年も山口大学医学部附属病院をよろしくお祈り申し上げます。



協会役員コーナー

子年に期待



周南市立
新南陽市民病院
病院長 松谷 朗

新年おめでとうございます。昨年度の医療関係の十大ニュースのひとつには厚労省からの機能見直しの必要な公的病院名の公表があげられると思います。当該病院の関係者からは不満、怒りの声が多かったですが、そうでない病院の関係者には賛同する方も少なくなかったようです。都会と地方ではまた反応も異なると思います。私どもの病院も満点(?)でノミネートされていました。外部から指摘されずとも内在する様々な問題点は自覚しており、既にいくつかの決定をした直後の国からの発表であったため、気分は悪かったですが、事前に情報も仕入れていた事もあり、動揺はありませんでした。ただし、今のまま人口減少が続けば国全体でみた現在の病床数や病院数を維持することが困難であることも明らかですので、数や機能の議論は今後継続して行かざるを得ません。

一方で、病床数の見直しを含め、我が国が抱える問題——労働力不足、年金の財源不足、国際競争力の低下など——の多くは人口減少、即ち出生率の低下に基づいている事に気づかされます。何故国をあげて少子化対策に真剣に取り組まないのか不思議でなりません。今年は子年に肖って出生数が増えて欲しいものです。

それはさておき、DPC導入を含めて、病院の改革に職員一丸となり取り組む年となります。ねずみ年の“子”の由来は増えることらしく、実際“子”年は景気が上向くとされています。期待しています。皆様のご支援をお願い申し上げます。

年を取れば中味が豊かになる？



美祿市立
美東病院
病院長 村上 不二夫

新年明けましておめでとうございます。

まずは令和2年も病院協会の皆様にとりまして、よい年になるようお祈り申しあげております。もっとも原稿を書いているのは令和元年初秋ですから、淡い期待の前に新年まで四半年間を「公的病院再編」という厚労省が突きつけた問題に向かい合っておりますので、「何とか良い方向に」とすでにお祈りしておりましたが……。公立・公的病院の幹部の方におかれましては苦しい時の神頼み……。新年の参拝ではさぞや真剣な表情で祈られたことでしょう。

この判断の基となったデータは2017年のものらしいですが、当県では「昔の話を出されても……」と言いたくなるような後退局面も眼にする状況にあります。当県の医師の年齢構成という点で状況は徐々に後退してきています。当県の医師平均年齢は全国で下から第一位、つまり高齢の医師が多く働いて高齢者をみる「老々医療」が当県では他県よりも進みつつあります。しかし、見方を変えれば経験豊富(?)なメンバーも揃っていますし、高齢になっても医療人として高齢化社会を生きる人々の支えになり、お役に立ちたいものです。

厚労省に対して医療のあり方を見直す論議は得意な方々に期待して譲るとして、現場の医療人は目の前の患者の体調を整えることが、豊かな高齢化社会を実現して、ひいては活力ある日本を維持することだと信じています。病院協会の皆様も新たな年を迎えて、年齢がまた一つ増えたと申しますか、より豊かな人材になったと信じて、本年も充実した日々を過ごしていきたいものです。

病院スタッフコーナー

多職種で取り組む食支援＝口から食べることへの包括的アプローチ



一般社団法人岩国市医師会
岩国市医療センター医師会病院
看護師

弥永 由紀

新年明けましておめでとうございます。

口から食べることには多くのメリットがあり、知覚や感覚機能に刺激を与え、脳の活性化につながるうえ、口腔内の自浄作用も働き、免疫力の向上も期待できます。同時に、精神的かつ社会的な側面ももち合わせており、満足感や充実感を得ることでQOLも向上します。

しかし超高齢化が進行する中では、食事に関することが大きな社会問題となっています。肺炎は日本人の死因の上位を占め、肺炎患者の約7割が75歳以上、高齢者の肺炎のうち7割以上が「誤嚥性肺炎」であり、「窒息」は高齢者の不慮の事故の中で最も死亡者数が多いとのデータが厚労省より発表されています。

それらの社会的背景をうけ、当院では、誤嚥・窒息予防のための仕組みを構築するという目的のもと、令和1年8月1日よりプロジェクトを立ち上げ、多職種で活動を開始しました。

入院時の誤嚥・窒息のリスクアセスメントに加え、誤嚥しても肺炎に至らないケアということにも視点をおいています。

さらに、私が所属する回復期リハビリテーション病棟では、より食支援に力を入れた取り組みとして、多職種でのKT（Kuchikara Taberu）バランスチャートによる評価とカンファレンスを導入し、口から食べることへの多面的で包括的なアプローチを実践しています。

医療者全般が、食べられない苦痛を抱えている患者やその家族に寄せる“思い入れの感度”と“食べる支援技術の精度”が低くなっているとも言われています。今一度、口から食べることの意味を胸に刻み、食支援についての職責を自らに問いかけながら、日々精進していく所存です。

サポーターとして



地方独立行政法人山口県立病院機構
山口県立総合医療センター
臨床工学技士

主任 名郷 孝徳

あけましておめでとうございます。

いよいよ待ちに待った東京五輪の年となりました。東京まで1000キロ弱、出場する選手やそのサポーター、五輪の運営に係る個人や企業に自治体など、距離はあっても日本全国で支え合い、記憶に残るいいイベントになればと思います、楽しみです。

当院は防府市に位置し、高度急性期病院としての機能に加え、基幹災害拠点、へき地医療拠点病院、地域医療支援病院および地域がん診療拠点病院など県の中核医療を担う役割を果たしています。そして職員一人一人が「県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する」という理念のもと日々邁進しております。

当院の臨床工学技士は現在15名、次年度には2名増員し17名と県下でも指折りの在席数となります。これは先進医療への取り組みから、最新の医療機器が早期に導入され、その操作や保守に対するニーズだけではなく、医師や看護師の不足から業務分担を再考し、それぞれの負担を軽減させる目的も背景にあります。私が就職した二十数年前では透析業務だけだったのですが、そこから医療機器の取扱いが多い手術室、医療機器を中央で管理し貸出を行う機器管理室、心カテ室や病棟、ICU、そして内視鏡室など増員とともに働く場所は急速に増えてきました。その増えた領域で自分たちの専門性を生かしつつ、多職種連携を大切に満足度の高い医療の提供に貢献する、そのようなサポーターでありたいと思います。

病院スタッフコーナー

臨床工学技士としての仕事とやりがい



独立行政法人国立病院機構
関門医療センター
臨床工学技士

山田 祥平

新年明けまして、おめでとうございます。

まず、始めに「具体的にどんな仕事をしているか」と言えば、臨床工学技士は「ME(medical-engineer)」「CE(clinical-engineer)」とも呼ばれ、「生命維持管理装置」を医師の指示のもと操作して治療のサポートをするほか、院内にある医療機器が安全に正しく使用できるよう保守点検を行うなどの業務を担っています。医療技術の進歩に伴い、高度化する医療機器も増え、医学と工学の知識を持ちスムーズな治療や検査が行えるように対応するのが役割です。今後も、さらなる医療機器の高度化などによって技士の増加と業務の拡大が期待されています。

次に「仕事に就いてからのキャリア形成」については、その業務は広範かつ専門性が高いため、職場の実務教育・トレーニングを通じて日々勉強し、現場での経験を積み重ね、患者さんや他職種からも頼られる技士になるために努力しています。今後は、学会認定や専門認定の資格を取得していきたいと考えています。

最後に「臨床工学技士としてのやりがい」についてですが、医学知識だけでなく、病院内の様々な医療機器に関する幅広い知識をもち、操作や管理・修理点検を行っています。私たちが保守点検した医療機器が患者さんの安全な治療に貢献できていることや、医療機器に関して他職種から頼られている存在であることにとってもやりがいを感じています。また診療科や急性期・慢性期を問わず治療に関与することができるのも魅力の一つです。

新年を迎え、新たな気持ちで一層の努力をしていく所存です。

患者家族からも信頼される看護師を目指して



萩市民病院
看護師

師長 三浦 文子

新年明けましておめでとうございます。

昨年コンフリクトマネジメントについて学ぶ機会がありました。コンフリクトとは紛争・葛藤を意味します。患者・家族と医療者間の関係を、対話を通して再構築することをコンフリクトマネジメントといいます。医療現場では、予期しない状況が生じると患者・患者家族は医療者に対して、不安感、不信感を抱くことがあります。医療する側、受ける側、双方の想いが十分に伝わらず、小さな関係性の拗れがコンフリクトに繋がる可能性があります。コンフリクトを回避するには、日々の思いやりの気持ちや誠実な対応が大切だといわれています。

私事ですが、この度母が入院をして医療機関にお世話になりました。認知症があり自分から話すことも少ない母に明るく話しかけて下さるスタッフの方がいらっしゃいました。母の病状が芳しくない時に、面会に行った私が母のことが気になり帰れずにいると、そのスタッフの方が「大丈夫です。今日は私が夜勤です。任せてください。」と優しく声をかけてくださいました。私にとっては大変心強い言葉でした。そして、母を気遣って下さっていることが分かる、本当に有難い言葉でした。このような気遣いの対応がコンフリクトマネジメントであり、患者家族にとって、安心感や信頼関係へと繋がるのだと実感しました。

令和2年の新年を迎え、気持ちも新たに、今年の研修や体験を常に意識して、患者・患者家族に信頼され、良い関係性が築けるように日々取り組んでいきたいと思っております。

研修会報告

令和元年度 病院中堅看護師研修会

令和元年10月2日（水）山口県総合保健会館第1研修室において病院中堅看護師研修会が開催され、96名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「認知症の方への接し方

～症状の理解と関わり方のポイント～

講師 山口県済生会下関総合病院

認知症看護認定看護師 主任看護師 吉永 奈央 氏

テーマ 「質の高い看護は、質の高い睡眠から

～よく眠った人には、かなわない～

講師 東洋羽毛中四国販売株式会社 岡山営業所

(社)日本睡眠教育機構認定 上級睡眠健康指導士

濱田 隆晴 氏

吉永氏は、ユマニチュードの基本を紹介しながら、認知症の方の興奮・混乱・暴力・BPSDを予防・改善していく接し方について、講演された。

濱田氏は、眠りのメカニズムや生体リズムについて解説したうえで、交替勤務の方や高齢者、それぞれに合った睡眠習慣の整え方を説明された。



吉永 奈央氏



濱田 隆晴氏



研修会風景

～病院中堅看護師研修会に参加して～



山口県済生会
下関総合病院

看護師 今村 明子

今回の研修では、認知症患者の看護についてと、質の高い睡眠がより質の高い看護の提供に繋がるということを学ぶことができました。

吉永先生は、認知症とは「日常生活に支障をきたす脳の病気」であり、すなわち、認知症患者は「困った人」ではなく「困っている人」である。患者の人としての尊厳を保ち、認知症患者が安心できるような関わりをしていくことが重要であると話されました。患者の言動一つひとつを意味のある行動として、何に困っているのかを患者の立場で考え、看護師はその要因を一つずつ取り除くことが重要であるということ学びました。

次に濱田先生は、健康のための大事な要素は食事、運動、睡眠であり、睡眠は日頃の生活習慣や睡眠環境（光り、音、温湿度、寝具）に大きく左右される。また、生活習慣である入浴や運動、食事やストレスについても考える必要があると話されました。人生の1/3は睡眠時間であると言われており、睡眠の質を上げることが質の高い看護の提供に繋がると感じました。

研修で学んだ具体的な声の掛け方やケアの方法などを自部署に持ち帰り、スタッフと共有して実践していきたいと考えています。そして、日々の生活や看護実践を行う中で、より質の高い看護の提供に向け自己研鑽に努めていきたいと思えます。

研修会報告

令和元年度 病院看護師長研修会

令和元年10月24日（木）山口県総合保健会館第1研修室において
病院看護師長研修会が開催され、100名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「看護管理の実際」

講師 山口県済生会豊浦病院
看護部長 村上 道子 氏

説明会 「電波を利用した医療機器のトラブルについて」

担当 中国総合通信局 電波利用環境課
佐々木 祐吾 氏

テーマ 「病院において働き方をどう考えるか～チーム医療の立場から～」

講師 一般社団法人山口県病院協会 会長
一般財団法人防府消化器病センター 防府胃腸病院
理事長 三浦 修 氏

村上氏は、管理者とスタッフの間で働く師長ならではのリーダーシップについて、実践的な講義を行った。

三浦氏は医師の高齢化や偏在、働き方改革とタスクシェアリングなど、現在の医療提供体制上の課題を幅広いデータから解説された。



村上 道子氏



三浦 修氏



研修会風景

～病院看護師長研修会に参加して～



一般財団法人防府消化器病センター
防府胃腸病院

看護師長 青木 朱美

今年4月に地域包括ケア病棟師長を拝命し、早7ヶ月が経ちました。私自身、師長になるのは早いのではないかと不安とプレッシャーを感じながら、周りのスタッフに支えられ管理業務を行っています。その中、看護管理能力を高めたいと思い研修会に参加しました。

村上先生の講演では、看護管理者に必要なスキルをたくさん教えて頂きました。特に、コミュニケーションのポイントで、自分が必要と思う以上にしっかりと「伝える」という言葉に感銘を受けました。伝える力が弱いと感じる私には、今後、看護管理をしていくうえでキーポイントになりました。スタッフの「良いところ探し」をさらに意識し、伝道師となりスタッフにしっかりと「伝える」という行動を実施したいと思います。そして、部署全体の方向性を定め、現場を動かす原動力となる存在になりたいと感じました。

また、三浦先生は、病院において働き方をどう考えるか、チーム医療について講演されました。2025年問題、現状のまま2040年を迎えた場合のリスク、医師数の減少でおこる課題からチーム医療の必要性について再認識しました。限られた人材で、その能力を発揮できるよう、多職種との連携強化、業務の効率化や改善を図ってからのタスクシェアリング、タスクシフティングが重要であると学びました。

今回の研修で、看護管理の実際、チーム医療について学ぶことができました。医療を取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、地域に根差した、当院ならではの地域包括ケア病棟を目指し、看護管理を行っていきたいと思います。

研修会報告

令和元年度 病院看護補助者・介護職員研修会

令和元年12月3日（火）山口県総合保健会館第1研修室において
病院看護補助者・介護職員研修会が開催され、83名の参加があった。
研修会のテーマ・講師は以下のとおり。



松原 学氏

【研修会】

テーマ 「介護施設での働き方について
～自分は何ができるか考えてみよう～」

講師 医療法人社団水生会
介護老人保健施設アーユス
事務部長 松原 学 氏



友安 史哲氏

テーマ 「自立支援介護理論 ～身体介護～」

講師 医療法人社団水生会
介護老人保健施設アーユス
看護・介護部長 友安 史哲 氏



中尾 郁子氏

テーマ 「社会（職場）に対応、応用する人間力を磨こう
～能力は開発できる！！～」

講師 医療法人愛の会 光風園病院
地域連携部長 中尾 郁子 氏

～病院看護補助者・介護職員研修会に参加して～

医療法人愛の会
光風園病院

介護福祉士 今本 直子

「介護施設での働き方について」世間では介護業界はきつい3K、4Kとも言われ、介護職のイメージは良いものではないと思われがちですが、実際介護施設で働く職員は仕事に誇りを持って働いています。これからの課題としては法人の理念に沿って目標管理や人材育成管理など、意識改革や教育に取り組んでいくことが必要とされますが、スタッフの意識の持ち方次第でケアの質に違いが表れてくるのではないかと感じました。

自分自身も仕事に対し受身であった事を反省し、今後は積極的に自身の行動をフィードバックし成長へ繋げていきたいと思いました。

また、「自立支援介護理論」では、体力、機能、意欲、環境のバランスが崩れることにより、ADL低下が重篤化してしまう為、総合的にプランの立案をする事、そして、思い付きのケアを行わず、理論に基づいたケアを行い状況の変化に伴い更新しなければならない事を学びました。

「社会（職場）に対応、応用する人間力を磨こう。能力は開発できる！！」では、コンピテンシーレベルを上げる為の方法を学び、人間力を高めることは自立した一人の人として力強く生きていく為の総合力だという事を理解することができました。

今後は研修で学んだ事が活かせる様、日々様々な事に興味を持ち、引出しを増やし知識や技術を高める努力を惜しまず、相手を思いやる気持ちを大切にしたいと思っています。

研修会報告

令和元年度 医療経営セミナー

令和元年12月11日（水）山口県総合保健会館第1研修室において、山口県医療法人協会との共催およびUbie株式会社の後援による医療経営セミナーが開催され、59名の参加があった。テーマ・講師は以下のとおり。

〈一部〉

演 題 「AIによる医療改革 ～生産性向上という果実を得るには～」

講 師 U b i e 株式会社 代表取締役・医師 阿部 吉倫 氏

〈二部〉

演 題 「AI問診システムの導入事例と今後の課題」

講 師 U b i e 株式会社 医療経営士 重藤 祐貴 氏



阿部 吉倫氏



重藤 祐貴氏



研修風景

諸会議報告

看護部長部会創立準備会議

日 時 令和元年10月7日（月）15：30～16：30

開催場所 山口県病院協会事務局

【議 事】

1. 看護部長部会運営規則草案の検討について
2. 部会創立当初役員について
3. 看護部長部会創立総会及び令和元年度看護部長部会研修会について
4. その他

令和元年度 第4回理事会

日 時 令和元年11月8日（金）15：00～17：00

開催場所 山口グランドホテル

【議 事】

1. 山口県病院協会看護部長部会運営規則の制定について

【承認事項】

1. 令和元年度山口県病院協会収支予算の執行状況について
2. 医療経営セミナーの共催について

【協議事項】

1. 第25回四県病院協会連絡協議会の提案議題について
2. 冬季医療経営講習会について

【報告事項】

1. 病院看護補助者・介護職員研修会について

2. 県行政委員等の推薦について

・山口県医療対策協議会委員
会長 三浦 修（再任）

・山口県医療対策協議会委員 社会医療法人
監事 尾中 宇蘭（再任）

・日本医療マネジメント学会山口県支部幹事
常任理事 高橋 幹治（新任）

3. 県各種委員会等の結果報告について

三浦会長

・第1回山口県医療対策協議会（10月28日）

・第101回山口県医療審議会医療法人部会

（持ち回り審議）

高橋常任理事

・山口県高齢者保健福祉推進会議（10月31日）

天津事務局長

・医療電波利用中国協議会（9月20日）

【その他】

令和元年度 第3回情報管理委員会

日 時 令和元年12月13日（金）15：30～17：00

開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 新年号の発行について
2. 4月号の発行準備について
3. その他

お知らせコーナー

令和元年山口県選奨受賞（山口県病院協会推薦）

教育や芸術、文化、スポーツの振興、産業や福祉などに功績があった人をたたえる県選奨の表彰式が12月19日、山口県庁で行われ、保健衛生・環境功労部門において、元山口県病院協会常任理事の内山 哲史 先生が受賞されました。

内山先生は、平成5年から岩国市医療センター医師会病院に勤務、同14年からは病院長となり、同29年まで岩国の地域医療に貢献してこられ、当協会ほか病院団体等の運営にも積極的に参画されました。その功績は顕著であることにより、県選奨受賞となりました。

心よりお祝い申し上げます。



県選奨受賞式を終えて



選奨状

病院協会の主な行事予定

- | | | |
|---------|-----------------|------------------|
| ○ 1月17日 | 第5回理事会 | (会場：山口グランドホテル) |
| ○ 1月24日 | 四県病院協会連絡協議会 | (会場：ホテルグランヴィア岡山) |
| ○ 2月20日 | 正・副会長、顧問会議 | (会場：古稀庵) |
| ○ 2月26日 | 第2回事務長部会研修会 | (会場：山口グランドホテル) |
| ○ 3月5日 | 看護部長部会設立総会及び研修会 | (会場：ホテルニュータナカ) |
| ○ 3月10日 | 第6回理事会 | (会場：新山口ターミナルホテル) |
| ○ 3月11日 | 第4回情報管理委員会 | (会場：新山口ターミナルホテル) |
| ○ 3月12日 | 金融懇談会 | (会場：古稀庵) |
| ○ 3月18日 | 医療事務担当職員研修会 | (会場：山口県総合保健会館) |
| ○ 3月24日 | 冬季医療経営講習会 | (会場：山口グランドホテル) |
| ○ 3月26日 | 県医師会・県病院協会懇談会 | (会場：割烹 福助) |

編集後記

令和初めてのお正月を迎えました。新年号をお届けします◆今年の干支は庚子（かのえ・ね）です。庚子は変化が生まれる状態、新たな生命が萌し始める状態を表すそうです。新しいことにチャレンジするのに適した年とも言えるでしょう◆三浦会長をはじめ皆さまからお人柄あふれる素敵な文章をいただきました。皆さまのお言葉にもありますように大変厳しい医療界ですが、変化し続けなければ進歩はありません◆令和の御世に、さらにはその先を見据えて何事にもチャレンジしていきたいと思えます。 (林 弘人)